令和８年度「家畜感染症制御の未来」研修会開催要領

１　目　　的

古代から中世は経験則の時代とされ、病原体を知らずに「隔離」が有効だとされた。

１９世紀に入り細菌が発見され、感染症は微生物によって起こると証明された。

２０世紀はワクチンと抗菌薬の誕生により感染症制御が劇的に進歩した一方で、都市化による大規模公衆衛生の時代が到来。

２１世紀の現代は、グローバル化によるＣＯＶＩＤ－１９等新興感染症の世界的感染拡大と耐性菌が増大する一方で、畜産の現場では感染を防御するワクチンが無い豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)等慢性疾病による生産性の低下が問題になっている。

そこで、人や環境の健康を守り、安全・安心な畜産物を安定的に生産するための「家畜感染症制御の未来」について情報共有を図る。

２　主　　催

長野県、一般社団法人長野県畜産会、長野県養豚協会、長野県養豚協会青年部

３　後　　援

オリオン機械株式会社　株式会社中嶋製作所

４　日　　時

令和　８年１２月１１日(金)　１４時から１６時

５　会　　場　（Zoomウェビナーによるハイブリッド開催）

〒399-0736長野県塩尻市大門一番町12番2号　　Web参加申込QRコード

市民交流センター「えんぱーく　５階」　イベントホール

Tel：0263-53-3350

６　参集範囲

畜産農家、畜産関係機関・団体、獣医師、行政関係者等

７　内容等

（１）PRRS抵抗性種豚の特徴

講師：イワタニ・ケンボロー株式会社　技術本部　遺伝管理部

吉冨（よしどみ）　司（つかさ）　氏

（２）PRRS抵抗性豚の仕組みと感染症制御の未来

（感染症の制御は隔離から始まり、ワクチン、抗菌物質、次はゲノム編集？）

講師：九州大学医学部名誉教授　小野（お の）　悦郎（えつろう）　氏

８　その他

本研修会は、長野県の「自衛防疫推進事業」及び公益社団法人中央畜産会の「地域養豚生産衛生向上対策支援事業」の一環として開催します。